令和元年度南予地方局予算の実施状況(R2.2.29 現在)

1 予算事項名 ぶどう産地力向上促進事業費

2 事業期間 平成30年度~令和元年度

3 所 管 産業経済部八幡浜支局地域農業育成室

4 事業概要

大洲喜多地区は質、量ともに県下一のぶどう産地であり、中山間地域における重要な経営品目といえる。しかし、温暖化の影響で基幹品種ピオーネの着色不良が顕著な問題となっている。また、シャインマスカットの全国的な増産へ対応するため、高品質生産や冬季出荷による新たなブランド産品の開発等を行う必要がある。これら課題を解決することにより産地力を向上し、ぶどう産地の維持発展と中山間地域農業の活性化に資する。

	令和元年度			
予算額	712 千円			

5 事業内容

- (1) ぶどう産地力向上検討会の開催(予算額132千円)
 - 〇産地力向上検討会の開催(年間3回)

地域の主要品目であるぶどうの産地力強化を図るための対策ならびに事業の推進方法について協議した。構成メンバーは生産者、JA 愛媛たいき、内子町、県(農産園芸課、果樹研究センター、八幡浜支局地域農業育成室・産地戦略推進室)。

①第1回:5月17日

昨年事業成果の報告、抽出した課題に対する実 証計画案について検討した(写真1)。

②第2回:8月1日(現地)

収穫前のピオーネ現地実証圃2か所にて、昨年剥皮部を削り直したところ(写真2)およびマルチ被覆効果について着色状況を確認した。また、6月12日に環状剥皮、キュアリング(写真3)した幹の状態も出席者全員で視認した。

③第3回:12月19日

シャインマスカットの冬季出荷技術として検討し てきたフレッシュホルダー(給水器)・果実袋・ビニ ル袋の有無で分けた貯蔵果実の状態確認と試食を行った。



写真1 第1回検討会(JA 愛媛たいき内子支所)



写真3 幹へのキュアリング処理 導管部まで切り込まないよう注意









写真2 剥皮部削り直し (傷付け→殺菌剤塗布→アルミホイル被覆→クラフトテープ被覆)

(2) 栽培技術等の確立 (予算額 580 千円)

①高品質生産技術実証調査

ピオーネの着色促進技術実証として、環状剥皮とマルチ被覆を行った(2園地)。昨年剥皮した園地で癒合不良が発生したため、5月22日と23日に削り直し、カルスを形成させて樹勢回復を図った。もう1園地では、環状剥皮とキュアリング処理を行った。両園地とも、収穫期にサンプリングし果実品質を調査した。

シャインマスカットの品質向上技術実証として、マルチ被覆を6月 12 日に行った。 7月 18日に4色の果実袋をかけ、9月に品質調査を行った。

②冬季出荷技術実証調査

シャインマスカットの長期貯蔵技術実証として貯蔵時期、方法、袋を比較した。2か年の調査で、フレッシュホルダーの鮮度保持効果を再確認した。ビニル袋と組み合せると腐敗果が多発することが分かり、最適な試験区(表②④、フレッシュホルダーあり・果実袋どちらでも・ビニル袋なし)も見出せた(かすりと軸枯れはO:なし~5:甚、食味総合は5:良い~3:普通~1:悪い)。

出荷については、JA 愛媛たいきおよび生産者と密な連携をとって実施できた。



フレッシュホルダー装着 (9月18日) 果軸を切るなど、終始水中で作業





使用したフレッシュホルダー 上:2018年、下:2019年

表 貯蔵試験区ごとの果房外観および食味評価(10月貯蔵分)

試験区	フレッシュ ホルダー	果実袋	ビニル袋	腐敗果	かすり	軸枯れ	脱粒果	食味総合	判定
1	あり	あり	あり						
2	あり	あり	なし	0.1 a	2.8	0.2 a	0.1ab	3.6	0
3	あり	なし	あり						
4	あり	なし	なし	0.5ab	2.5	0.0 a	0.3ab	3.6	0
5	なし	あり	あり	1.1ab	2.9	0.4ab	0.0 a	3.0	Δ
6	なし	あり	なし	0.3 a	3.2	<u>1.3 b</u>	0.0 a	3.3	×
7	なし	なし	あり	<u>1.5 b</u>	2.1	0.0 a	<u>0.6 b</u>	3.4	×
8	なし	なし	なし	0.7ab	2.1	<u>3.5 c</u>	0.3ab	3.1	×
有意性				*	ns	*	*	-	